

2026年9月
発行

REPORT

KYUSHU UNIVERSITY FUND

2025

[令和7年度 九州大学基金活動報告書]

Impact of Giving

ANNUAL



九州大学 総務部 同窓生・基金課
基金事業推進室

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

TEL: 092-802-2150

E-mail: k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://kikin.kyushu-u.ac.jp/>





4月 | 春の九大生応援キャンペーン
対象メニューへご寄附いただいた方の中から抽選で素敵な特典が当たるキャンペーンを実施しました。また、入学式では山川賞受賞学生とともに本キャンペーンの案内を行いました。

9月 | 秋のご寄附キャンペーン

九州大学基金
部活動・サークル活動支援基金

あなたの
エールが
学生の
パワー
になる

2025 / 9 / 1 ▶▶▶ 11 / 30
秋のご寄附キャンペーン

部活動・サークル活動支援基金へご寄附いただいた方の中から抽選で素敵なプレゼントが当たるキャンペーンを実施。期間中、総額200万円を超えるご寄附をいただきました。

11月 | 春日市ふるさと納税

九州大学基金
寄附返礼プロジェクト

30,000円のご寄附を頂いた方へ
九大農場発「農産物詰め合わせ」
を先着30名にお届けします！

筑紫キャンパスが所在する春日市へのふるさと納税を通じて、本学への支援が可能となりました。

12月 | 寄附返礼プロジェクト

2月 | 伊都キャンパス 駐輪場増設

新しい取組も続々！

通学の利便性向上を目的として、いただいたご寄附で、新たに500台以上が駐輪可能な駐輪場を増設しました。

HIGHLIGHTS

九州大学基金 令和7年度 主な活動実績

5月 | 開学記念式典

5月12日に開学記念式典が開催され、本学の発展にご尽力いただいた方々への感謝状の贈呈、紺綬褒章受章者への伝達、名誉教授称号の授与や、山川賞受賞学生による発表などが行われました。

Big News!

8月 | 八坂哲雄名誉教授と死因贈与契約締結

(株)QPS研究所ファウンダーであり、本学名誉教授の八坂哲様と、同社株式200万株のご寄附に関する死因贈与契約[※]を締結しました。
※贈与者が亡くなった際に特定の財産を受贈者に贈与することをあらかじめ両者の合意のもとで取り決める契約

7月 | 相続・遺言セミナー

本学の著名な先生と信託の専門家を招き、北九州・大阪・福岡・東京の4か所で開催しました。令和8年度からは「早めに始める終活準備セミナー」にテーマを改めて開催します。

10月 | 本学同窓生 ロバート・ファン氏 総長特別顧問に就任

本学の同窓生であり、グローバルに活躍する実業家のロバート・ファン氏(写真右から2番目)が総長特別顧問に就任しました。今後は、エンダウメント型基金をはじめ、九州大学基金の運用に関する助言・提言をいただき、本学のさらなる発展に向けて力強いご支援をいただきます。

3月 | 公開講座 Kyushu University Open Explorations 100 -「総合知」探究-

Kyushu University Open Explorations 100
A Journey of Discovery

本学の研究・教育の成果を広く社会へ発信するとともに、企業と研究者との新たな「つながり」の創出を目的として、全90プログラムを8日間にわたり開講しました。企業関係者や高校生を含む一般の方々など、延べ3,200名の皆さまにご参加いただき、活発な対話と交流が生まれました。

10月 | 感謝の集い

寄附者の皆さまに感謝の気持ちを直接伝え、交流を深める機会として「栄誉の会」「感謝の集い」を開催しました。「感謝の集い」では感謝状贈呈をはじめ、九大基金からのご報告、学生・研究者による発表、課外活動団体の紹介などを行いました。

8月 | 未来人材育成奨学金交流会

奨学生から、研究や社会活動、海外への挑戦について発表し、自身の成長と今後の目標を語りました。支援企業との質疑応答や意見交換も行われ、有意義な機会となりました。2月には報告会も開催しました。

10月 | ダイヤモンドの集い

スタートアップ共創基金へのご寄附に感謝を込めて開催しました。研究成果の発表や交流を通じて、寄附者と研究者が直接つながり、未来を共に創る新しいアイデアが生まれる場となりました。

3月 | 売御礼! 九大エール

学位記授与式にて、本学オリジナルクラフトビール「九大エール」を数量限定で販売し、その売上の一部は九州大学基金へ寄附されました。本学の研究・教育・施設整備などに活用されます。

九州大学基金を通じて、 多大な支援を賜り、 誠にありがとうございます。

皆さまからお寄せいただいたご寄附は、学生の修学支援や挑戦的な活動の後押し、若手研究者の育成、研究環境の充実、さらには社会課題の解決に挑む教育研究活動など、本学の幅広い取組を支える大きな力となっています。寄附者の皆さまのご厚意により、本学の教育・研究・社会共創活動が着実に前進していることに、改めて深く感謝申し上げます。

九州大学は、2030年に向けた本学の目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げ、その実現に向け、「Kyushu University VISION 2030」を策定しています。

複雑化する社会課題に対しては、一つの学問分野だけで解決策を見いだすことは困難です。多様な「知」と「人材」が集う総合大学として、本学は自治体や企業、地域社会をはじめとする様々なステークホルダーとの共創を進めながら、脱炭素、医療・健康、環境・食料といった重要課題の解決に挑戦しています。また、DXの推進をはじめ、新たな価値創造に向けた教育・研究基盤の強化にも取り組んでいます。

さらに、本学は110年を超える歴史の中で培ってきた知の集積と人的資源を礎として、世界最高水準の教育・研究を展開し、未来社会を担う人材の育成と新たな知の創造に努めています。

九州大学基金は、こうした挑戦を支える重要な基盤です。「大学に一任」のご寄附を活用した教育研究の高度化に加え、「山川賞」をはじめとする学生への修学支援や独創的活動支援、研



究者育成、施設整備、各部局における活動支援など、多様な寄附プロジェクトを展開しています。

また、2025年には新たに「エンダウメント型基金」を設置しました。基金を将来にわたり持続的に成長させ、その果実を教育研究活動へ還元することにより、「基金の成長」と「教育研究支援の拡大」の好循環を生み出し、安定した財務基盤の構築を目指しています。

本活動報告書では、2025年度に九州大学へのご寄附によって実現した様々な取組や成果をご紹介します。本報告書を通じて、皆さまのご寄附が学生や研究者の挑戦を支え、社会に新たな価値を生み出している姿をご覧いただければ幸いです。

九州大学はこれからも、社会とともに未来を創る大学として歩み続けてまいります。卒業生の皆さま、在学生・保護者の皆さま、地域の皆さま、企業・団体等の皆さまにおかれましては、引き続き本学の取組にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年10月には赤司浩一新総長が就任し、新たな体制へと移行します。新体制のもとにおきましても、本学のさらなる発展と社会への貢献に向けた取組を着実に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

2026(令和8)年9月
九州大学総長
九州大学基金本部長 石橋 達朗

■九州大学へのご支援(大学に一任)のお願い

令和7年度実績

寄附受入額

36,695,902円

件数

1,818件

大学に一任いただいたご寄附はVISION2030で掲げた本学の目指す姿の実現に向け、研究教育の更なる高度化に活用させていただきます。その他、地域社会との共創による活動や、ご寄附を適切に運営するための経費として活用させていただきます。

VISION 2030
総合知で社会変革を牽引する大学へ

実現に向けた8つのビジョン

VISION1
ガバナンス

VISION2
DX

VISION3
教育

VISION4
研究

VISION5
社会共創

VISION6
国際協働

VISION7
医療

VISION8
財務基盤

九大基金活動内容

基金全体の活動

1 令和7年度 九州大学基金へのご寄附

令和7年度は、総額約**9億1千万円**のご寄附を頂戴しました。

九州大学基金は、2011(平成23)年に、百周年記念事業の一つとして、九州大学の教育・研究・診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的に創設され、多くの方からのご寄附により支えられています。

種別	件数	金額
一般資金	2,214件	280,925,714円
特定資金	1,972件	515,899,494円
特例寄附資産等基金	3件	117,291,150円
寄附総額	4,189件	914,116,358円

令和7年度九州大学基金収入

一般資金	28,093万円
使途特定寄附金	5,616万円
使途特定プロジェクト	31,278万円
部局特定寄附金	13,947万円
特例寄附資産等基金	11,729万円
運用利息	6,715万円
償還時為替差益	6,698万円
合計	104,825万円

令和7年度九州大学基金支出

支援助成事業	6,398万円
使途特定寄附金	14,397万円
使途特定プロジェクト	23,778万円
部局特定寄附金	3,159万円
運営資金	5,944万円
部活動・サークル活動支援基金	610万円
合計	54,286万円

ご寄附でいただいた9.1億円に加え、資産運用により6,700万円程の運用利息、外国債券償還時に6,700万円程の為替差益が生じており、合計約10.4億円の収入がありました。一方支出は、学生・教職員に対して年間1億円規模の支援助成事業を実施しているほか、各プロジェクトにおける事業実施に伴うものをあわせて合計約5.4億円となっています。

2 九州大学基金の称号について

九州大学基金にご寄附いただきました皆様へ感謝の意を表するため、前年度末までの九州大学基金への寄附累計額に応じて次のとおり称号を贈呈させていただいております。

称号	個人	法人	個人数	法人数
特別栄誉賞(殿堂入り)	1億円以上	5億円以上	10	0
特別栄誉賞	1,000万円以上	1億円以上	25	3
栄誉賞	500万円以上	1,000万円以上	17	33
特別功労賞	100万円以上	500万円以上	131	8
功労賞	50万円以上	100万円以上	131	110
功績賞	10万円以上	50万円以上	1,808	74

※2026年3月31日時点の寄附累計額を元に集計 ※連名の場合は1件としてカウント

03 | ANNUAL REPORT

基金全体の活動

研究への支援

学生への支援

施設整備への支援

学部・学府・研究院等への支援

部活動・サークル活動への支援

04

女性研究者活躍促進プロジェクト

九州大学
女性研究者活躍促進
プロジェクト基金

九州大学が優秀かつ多様な学生や若手研究者を確保するとともに、社会全体の女性活躍推進に向けた先導的な取組を推進するため、皆様からのご支援を募っています。女性研究者・女子学生を顕彰する賞や、育児・介護などの両立支援、男女共同参画に関する意識啓発セミナーの実施経費などに活用しています。

九州大学 男女共同参画推進室主催
九州大学 女子卒業生の会「松の実会」・未来人材育成機構共催
Open Cafe 2025
九大OGに聞く！
学生生活やキャリアについて

2026/2/28 (土)
14:00 - 16:00 対面開催

場 所：伊都キャンパス 男女共同参画推進室 多目的スペース
対 象：在学生・一般の方
参加費：無料・飲み物とお茶菓子あり

様々な分野で活躍する九大OGをお招きして、これまでのキャリアやプライベートについてのお話しを伺います。おひらきは、大学附属理工学府を修了後、福岡のキャスターとして活躍されている佐々木理恵さん。もうおひらきは大学附属総合理工学府を修了後、福岡県保健福祉研究所で活躍されている廣瀬智陽子さんです。講演のあとは、スイーツやドリンクを飲みながら、気軽に質問したり、みなさんとおしゃべりができる交流タイムを設けています。学生の方も、聞いていてもいいかも。勇気を出して参加をお願いします。

ニュースキャスター 佐々木 理恵さん 福岡県保健福祉研究所 大気課 廣瀬 智陽子さん
2007年 芸術工学府 修士課程修了 2020年 総合理工学府 博士課程修了

九州大学男女共同参画推進室 26/1/20(火)より受付
URL: <http://danryo.kyushu-u.ac.jp> お申込はこちら ▶
E-mail: event@danryo.kyushu-u.ac.jp <先着30名>

オープンカフェ2025のポスター

TOPICS



オープンカフェの様子

令和8年2月28日、「松の実会」および未来人材育成機構との共催により、第12回「Open Cafe 2025 ～九大OGに聞く！学生生活やキャリアについて～」を開催しました。当日は、芸術工学府修了の佐々木理恵さんと、総合理工学府修了の廣瀬智陽子さんを講師にお迎えし、学生生活やキャリア形成、仕事とライフイベントの両立についてお話しいただきました。講演後は交流会も行われ、学生へ温かいメッセージが送られました。

糸島インクルーシブ・アート・ヴィレッジ・プロジェクト



■プロジェクト実施責任者
人間環境学研究院・教授
藤田 雄飛

令和7年度も、大学周辺(泊地区)におけるインクルーシブなまちづくりを目的としたアート実践に取り組みました。特別支援学校と九州大学の連携を核に、地域内外のアーティストとともにアート・

ベースド・リサーチを展開し、その活動を糸島市全体へ拡大しています。

具体的には、夏祭りでのアート展示・体験、学生主体の年中行事や地元学活動、特別支援学校での交流型ワークショップ、PTA活動でのVRメタバース体験、アートフェスタでの展示、身体表現ワークショップ、「糸島国際芸術祭2025 糸島芸農」への出展等を行いました。これらの取組を通じて、特別支援学校・地域・大学がつながり、多様な人々が日

常の中で交差する新たなインクルージョンの可能性が広がっています。令和8年度も、アート実践(作品制作・ワークショップ等)を中心に活動を継続し、三者が関わる機会を増やすとともに、これまでの活動の分析にも取り組みます。



糸島特別支援学校で開催したワークショップ「とまり天文台」



夏祭りに出展した「泊の大灯籠」(撮影:尾崎明子)



芸術祭で実施した「旗を持って歩く」パフォーマンスの様子

全体の活動報告について

本報告書に掲載されていない活動報告については、九州大学基金のホームページに公開しております。右記の二次元コードよりアクセスの上、ご覧ください。



BeCAT・環境をテーマにした建築研究教育プロジェクト



■プロジェクト実施責任者
人間環境学研究院・教授
BeCAT・センター長
重松 象平

春・夏の大学院スタジオでは、学生のための新たな実験研究施設の企画・設計に取り組みました。学生が活動する大空間を対象に、自然エネルギーを最大限活用した建築のあり方を提案し、可変性の高い学生の活動場所のモックアップを制作しました。

BeCAT応用プログラムでは、「杉背板結束パネルのパヴィリオン」「3次元日射調整建具」「製塩のための集熱塔」「ジオポリマーコンクリート3Dプリント」「背板型枠再利用」「プレカット廃材のシャワースペース」の各プロジェクトを実施しました。公開レクチャーでは、大西麻貴+百田

有希、西澤俊理、西村祐人の各氏にご登壇いただき、9月に開催された日本建築学会大会(九州)に合わせ、「レム・コールハース講演会」および「アジアから考えるグリーンデザイン」シンポジウムを開催しました。

社会実装プロジェクトでは、杉能舎「酒蔵ガルテン」が2026年4月にオープンし、「アスミオ株式会社新社屋」の実施設計を完了しました。また、BeCATの活動方針や成果をまとめた書籍『建築で循環をデザインする』を出版しました。



日本建築学会大会に合わせて開催した「レム・コールハース講演会」



社会実装プロジェクト：改修が終わった杉能舎「仕込み蔵ガルテン」内観



夏スタジオ：実験研究施設に居場所を作る日射調整天蓋モックアップ

ウェルビーイングの定量化と育成プロジェクト：新国富指標(Beyond GDP)の活用に向けて



■プロジェクト実施責任者
工学研究院・教授
都市研究センター・センター長
馬奈木 俊介

従来のGDPに代わる新たな「豊かさ」の指標である「新国富指標(包括的な富)」と「ウェルビーイング」の定量化および社会実装を世界的に牽引しています。

国連では2014年から「新国富報告書」の代表を務め、その成果は国連「Beyond GDP」最終報告書のグローバル指標として採用されました。

自治体との連携にも注力し、福岡県久

山町では新国富指標に基づくインフラ整備の予算配分や企業との実証実験を展開しています。また、熊本県では半導体関連産業の進出に伴うインフラ評価を推進しています。国内外の行政や企業と連携しながら、将来世代の持続可能な社会づくりに向けたデータベース構築や指標



福岡県久山町と連携し、新国富指標を利用したまちづくりを実施

の実装に精力的に取り組んでいます。さらに、学生に対して国内外の共同研究における発表機会を提供するなど、次世代を担う人材育成にも注力しています。



国連環境計画(UNEP)より、本学教員が作成を主導した「Inclusive Wealth Report 2022」を発信

次世代を担う若者を育てる 山川賞

九大大
応援基金

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、次代を担う若者を育てることを目的とし、学業を助成する奨学金として年間100万円を学部卒業年度まで給付します。

〔令和7年度受賞者〕

■2年次生：5名 ■3年次生：2名 計7名



山川健次郎初代総長胸像と令和7年度山川賞受賞者

感謝の声

〔令和7年度受賞〕

工学部電気情報工学科
山田 美羽

■支援期間：令和7年度～令和8年度

支えを力に、学びと研究への挑戦



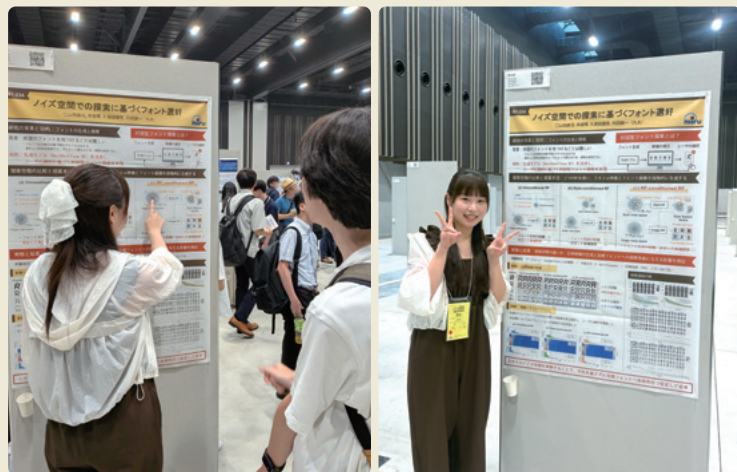
令和7年度は、私にとって高等専門学校から大学への編入学という、大きな環境の変化を経験した一年でした。高専では、ものづくりに取り組みながら技術を実践的に学んできました。一方、大学では、その技術を支える高度な理論や、仕組みの根底にある考え方を学んでいます。当初は、学び方の違いに戸惑い、基礎知識が足りないのではないかと焦りを感じることもありましたが、「理論を深く理解してこそ、より良いものづくりにつなげられる」と考え、日々の学習に粘り強く取り組みました。一人で解決できない問題に直面した際には、友人と意見を交わ

し、互いに助け合いながら理解を深めました。その結果、ほぼすべての科目で非常に良い成績を収めることができ、日々の努力が成果につながったことを実感しました。

現在は、ヒューマンインタフェース研究室に所属し、AIを活用して、利用者の好みに合ったフォントを見つける研究に取り組んでいます。この研究では、利用者が選んだ好みに近いフォントをもとにAIが新たな候補を提案し、そのやり取りを繰り返すことで、利用者が希望するデザインへ少しずつ近づけていく仕組みの実現を目指しています。多様なフォントを生成し、利用者の好みに合う候補を効率よく探すことには多くの難しさがありますが、先生や先輩方のご指導を受けながら試行錯誤を重ね、少しずつ研究を形にしています。研究室に配属されて間もないながらも、画像認識・コンピュータビジョン分野の国内シンポジウムでのポスター発表では、さまざまな分野の研究者の方々に自分の研究について説明し、貴重なご意見をいただくことができました。短い期間で研究成果を発表につなげられたことは、私にとって大きな自信となり、今後の研究への励みにもなっています。

今後は、研究をさらに発展させ、国際学会での発表にも挑戦したいと考えています。私は、自分の研究によって世界に挑戦できることに、大きな面白さとやりがいを感じています。これからも研究への好奇心を大切にしながら、より良い成果を生み出せるよう努力を続けていきます。

このように、学業や研究に一切の妥協なく没頭できたのは、山川賞という多大なご支援があったからです。このご支援のおかげで心と時間に余裕が生まれ、学業や研究に全力で取り組むことができました。「お金の心配をしなくていい」という環境が、どれほど私の精神的な支えになり、前向きな気持ちにさせてくれたかは計り知れません。いただいたご支援への感謝を忘れず、今後も学業と研究に真摯に向き合い、専門性と技術力を磨き続けていきます。そして将来は、身につけた専門知識を社会に役立て、これまで受けてきたご支援を次の世代や社会へ還元できる人材を目指します。



研究発表の様子

学生の国際性を育てる 海外派遣

九大大
応援基金

自国の文化や歴史を知り、自分の考え方を国際社会で主張できる論理的思考力、積極的姿勢や発信できる語学力を兼ね備える学生の国際性を育てるための支援助成事業を行っています。九州大学基金では2つの支援を行っています。

〔海外留学渡航支援〕

学生が、海外の大学等で学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異

感謝の声

生物資源環境科学府
小田橋 佳奈

■留学期間：令和7年8月19日～令和7年12月11日

アメリカ「北アリゾナ大学」に留学



私は留学中、専門分野である環境科学の講義を履修しました。世界の生態系やその保全策について、近年注目される研究分野や課題とあわせて学び、ディスカッションを通して現地の学生と積極的に交流しました。また、アリゾナ州の自然生態系や地域特有の環境問題についても知見を深め、フィールドワークでは、強い日射に適応した白い葉を持つ植物など、日本では見られない植物形態を観察しました。

生態学の授業では、さまざまな規模における生物の分布パターンを学びました。なかでも、エルニーニョ現象がアカカンガルーの個体数に影響を及ぼす事例から、気象と自然生態系の関係を学んだことが印象に残っています。鉱物学では、物理的・化学的特性による鉱物の同定

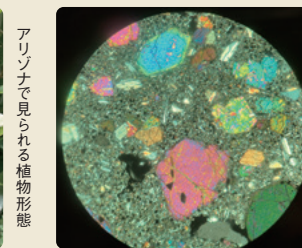
文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍できる人材として社会に貢献できるようになることを目的とし、渡航費を支援します。令和7年度は142名の支援を行いました。

〔国際会議等参加支援〕

学生が、国際会議等において研究発表するための機会を増やすことにより国際感覚の醸成を図ることを目的とし、国際会議等に論文を提出し、研究成果を発表するための渡航費等を支援します。令和7年度は60名の支援を行いました。

法や、岩石の形成過程と鉱物の関係について学び、自身の専門である土壌学への理解も深まりました。さらに別の授業では、環境変化が生物の遺伝的多様性に与える影響について学びました。最終プレゼンでは、山火事に適応した植物について発表しました。クラスメイトと協力して論文探しや発表準備を行い、とてもいい経験になりました。

ご支援のおかげで、留学前は英語学習に集中でき、留学中も充実した生活を送ることができました。留学を通して日本と海外の大学教育の違いを学び、将来は大学教育や研究者育成に携わりたいと考えられるようになりました。この経験を社会で生かせるよう、今後一層励んでまいります。



アリゾナで見られる植物形態

偏光顕微鏡で見た鉱物薄片

課外活動など学生の創造と挑戦を支える 学生の活動支援

九大大
応援基金

〔課外活動支援〕

サークル等の活動を活性化するため施設整備等を支援しています。令和7年度は、大学公認サークル18団体に支援を実施しました。

感謝の声

芸術工学部吹奏楽団

演奏に欠かせない打楽器を購入

私たち九州大学芸術工学部吹奏楽団は、吹奏楽を楽しみ交流することを目的

に、精力的に活動を行っております。令和7年度は新たに15名の団員が加わり、団体としてさらなる発展を続けております。

令和7年度は支援助成事業に採択いただき、打楽器「チューブラーベル(チャイム)」を新たに導入することができました。チャイムは、吹奏楽において重要な場面で頻繁に使用される打楽器ですが、当団体ではこれまで所有しておらず、演奏の際には様々な代替手段を講じてきました。



例えば、楽曲によってはチャイムのパートをカットしたり、グロッケンで代用をしたり、どうしても必要な場合は他団体から借用するなどしてきましたが、このような状況は、選曲においても大きな制約となっていました。

このたびの助成により、日頃の練習からチャイムを用いることが可能になり、団員が継続的にチャイムの演奏技術の向上に取り組める環境が整いました。また、選曲の自由度も格段に広がり、今後の演奏会において、より幅広い楽曲の演奏が可能になると考えております。今回の助成は設備面の充実だけでなく、団体の表現力や音楽的挑戦を大きく後押しするものとなりました。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。

留学生支援事業基金

「留学生支援奨学金」事業では、2025年4月および10月支給開始分（支給期間は原則1年間）の募集を実施し、各回1名、計2名の奨学生を採択しました。

2025年4月支給開始の奨学生（中国出身・博士後期課程）は、奨学金を研究・生活費や国際学会参加費に活用し、経済的負担を軽減しながら研究活動と国際交流に取り組みました。

また、2025年10月支給開始の奨学生（エジプト出身・博士後期課程）は、2人の幼児を育てながら研究を続けており、本奨学金が研究活動と家庭生活の両立を支える大きな助けとなったとの報告が

寄せられています。

本事業を通じて、奨学生が安心して研究に専念できる環境づくりが進み、本基金の目的である外国人留学生への支援につながりました。



スタディトリップの様子



ワークショップの様子

QURIES基金



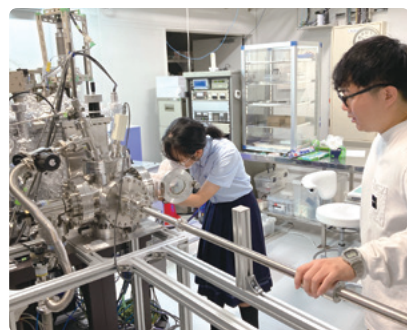
■プロジェクト実施責任者
総合理工学研究院・教授
萩島 理

QURIESプログラムは、大学進学前の優秀で意欲あふれる女子高校生を対象に、本学の研究活動を体験する機会や、理工系研究者・技術者のキャリアパ

スを間近に見る機会を提供しています。本年度は、県内38校から過去最高となる100名の応募があり、選考の結果、26校47名を受講生として決定し、27研究室へ配属しました。本寄附金のご支援により、受入研究室数は令和6年度の19研究室から令和7年度は27研究室へ、受講生数は令和6年度の36名から令和7年度は47名へと増加し、本学が有する多彩な研究分野を、より多くの

高校生に体験してもらうことが可能となりました。

参加した高校生からは、「まだ分かっていない、解明されていないことについても知る機会があり、このような謎がまだたくさんあると思うと、とてもワクワクします」などの声が寄せられています。今後も本基金を活用し、大学進学を見据えた女子高校生の理系分野への興味・関心を高める活動をさらに展開していきます。



研究活動の様子



オリエンテーションにて、女性研究者が受講生に自身の研究活動を紹介している様子



研究活動報告会の様子

産業数学人材育成プロジェクト



■プロジェクト実施責任者
マス・フォア・インダストリ
研究所長
梶原 健司

産業界や社会に貢献できる高度数学人材の育成を目的として、令和7年度もスタディグループ・ワークショップを実施しました。参加学生は企業から提示された実課題に取り組み、企業との協働を通じて課題解決のプロセスを実践的に学びました。また、現地学生との共同研究に取り組む学生をマレーシア工科大学へ派遣しました。英語での研究発表を経験し、その後も海外の研究集会に積極的に参加するなど、研究活動の幅を広げました。

さらに、学生の電子情報通信学会への論文投稿料を支援しました。同種写像暗号に関する研究成果をまとめた論文は、SCIS2025において「SCIS論文賞」を受賞するという優れた成果につながりました。

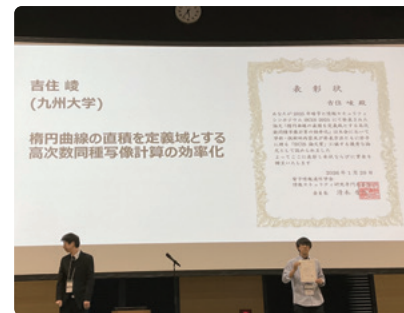
令和8年度からは、中高生を対象としたアウトリーチ活動も展開し、次世代の人材育成につなげていきます。



SGW2025にて課題に取り組む学生の様子
「異分野の参加者と交流でき、
普段の研究では得られない視点を学べた」



共同研究に取り組む学生をマレーシア工科大学(UTM)に派遣



投稿料を支援した学生の論文が「SCIS論文賞」を受賞

価値創造型半導体スペシャリスト育成プロジェクト



■プロジェクト実施責任者
システム情報科学研究院・教授
価値創造型半導体
人材育成センター・センター長
金谷 晴一

本事業では、教員が文理の枠を超えて結集し、半導体スペシャリストであると同時に、社会のニーズを理解し、半導体・集積回路の設計・製造に反映できる「価値創造型半導体スペシャリスト」を



高度実習により試作したICチップお渡し会&評価会の様子
(手に持っているのが試作したICチップ)

育成しています。

センター教員により新設された半導体ビジネスに関する講義群や、国内外の主要半導体関連企業等の技術者による講義については、本学の学生に加え、他大学の学生や社会人の皆様にも受講いただきました。

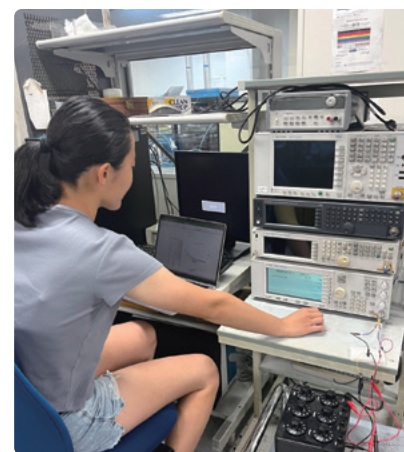
さらに、国際的な大学連携事業のご支援のもと、本学の学生を米国の大学へ派遣するとともに、米国の学生の受入れも実施しました。加えて、高度実習(高



学生が試作したICチップ
(チップパッケージにKYUの文字が見える)

周波計測、シミュレーション、IC設計)を新たに開始しました。

今後も、海外インターンシップの支援、半導体を研究する学生への研究奨学金の授与、半導体に関する講義や設計・評価実習を継続的に実施する予定です。



米国学生の九大での実験の様子

総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業



■プロジェクト実施責任者
総合研究博物館・助教
福永 将大

本事業では、市民に開かれた新しい博物館を目指し、箱崎・伊都それぞれの場所を活かした活動を展開しています。

令和8年5月には、常設展示室をリニューアル・オープンしました。昨年7月より休止していた展示機能を再開し、展示室の整備には皆様からのご寄附を活用させていただきました。本学に伝わる歴史的家具を活用しつつ、110余年にわたり蓄積されてきた貴重な学術標本・資料を展示することで、文系・理系の枠を越えた九州大学の「総合知」を可視化しています。

再開にあわせて、5月の土日4日間には通常公開していない館内エリアを特別公開しました。約2,000名の方々にご来館いただき、大変盛況となりました。

今後も展示やイベントを定期的に開催し、多くの皆様に学術標本・資料に触れていただく機会を提供していきます。



リニューアルした常設展示室



化石標本ツアーイベントの様子



鉱物標本ワークショップイベントの様子

医学図書館整備事業

令和7年度は、「本でめぐる、医学の世界展」および「人体・病をみる・みせる」展を開催し、医学図書館が所蔵する『解体新書』をはじめとする貴重資料を展示しました。多くの方々にご来館いただき、貴重資料への関心を深めていただく機会となりました。

また、「フレーベルの星づくり」ワークショップを開催し、学生・教職員・一般の方々と図書館スタッフが交流を深める場となりました。さらに、図書館前広場では学生による演奏会を実施し、図書館に親しみや活気をもたらしました。

学習環境の整備にも継続して取り組み、カーペットや窓ガラスの清掃を実施するなど、長時間学習に取り組む学生

が快適に過ごせる環境づくりに努めました。

令和8年度は、学生への学修支援の充実と利用環境の向上に一層努めるとともに、特に多様化する学びのスタイルに対応したサービスの提供に力を入れ、より魅力ある図書館づくりに取り組んでまいります。



図書館前広場でのミニコンサート



電子黒板の購入



「フレーベルの星づくり」ワークショップ

九州大学病院基金



高度医療の提供(手術の様子)

令和7年度は、九州大学病院基金を活用し、患者さんが安心かつ快適に医療を受けられる療養環境の整備を行いました。

購入から20年以上が経過し、破れや

汚れなどの劣化が目立っていた歯科外来待合ソファを新調しました。これにより、待ち時間をより快適にお過ごしいただける環境を整備することができました。また、劣化が進んでいた患者さん用のベッドも新調し、安全性及び快適性の向上を図りました。

さらに、患者さんの利便性向上のため、フリーWi-Fi環境を整備しました。これにより、診療手続きや診療費の後払い等をサポートする『九州大学病院コンシェルジュ』(アプリ)を院内でも快適に

利用できるようになり、利便性の向上に寄与しています。

令和8年度も、本寄附金を活用させていただき、患者さんが安心・快適に医療を受けられる療養環境の整備を進めるとともに、満足度の高い医療環境の提供に努めてまいります。



新調した歯科外来待合ソファ

次世代アントレプレナー育成基金

本基金は、次世代のアントレプレナー育成に向けた実践的な教育環境の充実に活用しています。QRECでは、基礎から実践までを体系的に学べる教育プログラムを全学向けに展開し、社会に新たな価値を創出する人材の育成を推進しています。ご寄附は、短期集中海外渡航プログラム「グローバルPBLプログラム」、「Entrepreneurship Bootcamp」、

「Venture Life Challenge」に参加する学生への渡航費補助のほか、QREC科目における海外講師の招聘や実践的な講義運営に活用しました。

学生たちは、国内外の多様な人々との対話や協働を通じて視野を広げ、自らのアイデアを磨きながら実践力を高める貴重な機会を得ることができました。学生たちが貴重な学びの機会を得られた

のも、皆様からのご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。



海外渡航プログラム現地の様子



実践的な講義の様子

学部・学府・研究院等への支援

水素エネルギー研究教育基金

水素エネルギー分野の博士課程学生への支援として、授業料相当額の支給や研究奨励賞の創設について検討を進めるとともに、水素ステーション、燃料電池自動車、水素社会ショールームの展示物整備にも、寄附金を活用させていただきました。

さらに、これらの設備や展示物を活用した普及啓発活動や環境学習は好評をいただいております。令和7年度は前年度を上回る1,165人の見学者をご案内しました。参加者からは「未来のエネルギーについて、楽しく、わかりやすく理解できた」との声もいただいております。

こうした取組を通じて、若手研究者の育成に加え、未来を担う子どもたちが環境や次世代エネルギーを学び、関心を深める機会づくりにもつながっています。今後も、水素社会の実現に向けて、着実に活動を推進してまいります。



九大水素ステーションと燃料電池自動車を活用した見学会の様子



水素社会ショールームを活用した親子対象の環境学習見学会の様子

理学支援基金

理学支援基金には、卒業生ならびに学生保護者の皆様から温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

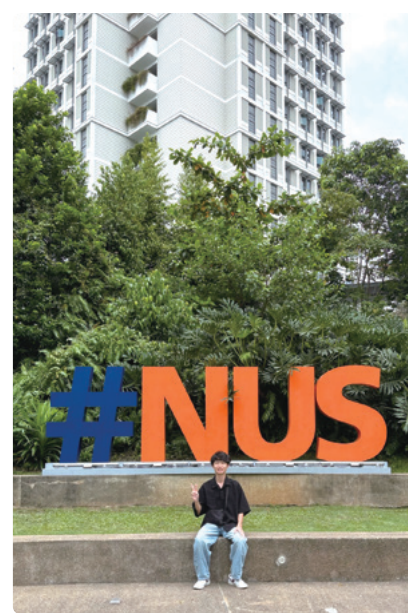
令和7年度は、留学生が講師を務める「サイエンス英会話講座」および学生が国際経験を養うための「留学奨学金制度」に本基金を活用しました。講座参加者からは、英語によるコミュニケーション力の向上や異文化理解の深化につながり、参加者全員の長期留学意欲が高まったとのアンケート結果が得られました。また、奨学金受給者からは、主体的な学びの定着や視野の拡大につながったとの報告が寄せられました。これらの国際的な環境での経験は在学生にも共有され、学部・大学院全体の国際志向の

醸成に寄与しています。

今後とも、物理学、化学、地球惑星科学、生物学の各分野において、学部生・大学院生の教育から最先端の学術研究に至るまで、一層の充実を図るため、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



サイエンス英会話の様子



留学支援奨学金を活用したシンガポール国立大学への交換留学の様子

部活動・サークル活動への支援

部活動・サークル活動支援基金

〈九州大学アメリカンフットボール部〉



私たち九州大学アメリカンフットボール部PALOOKASは、週5日の練習に励み、全国大会で戦うために日々努力を重ねています。

昨年度は、いただいた寄附金を全日本選手権第二回戦での借上げバスの利用料金として活用させていただきました。これによって、部員の金銭的負担や

試合当日の身体的負担を軽減することができました。

また、昨年は、九州リーグ三連覇を果たしました。目標としていた中京大学には一点差で敗れてしまいましたが、着実にチームが強くなっていることを実感したシーズンでした。

今年も「打倒東海地区代表校」を掲げ、部員全員が全身全霊でこの目標に挑んでいます。私たちの挑戦を、どうか皆さまのお力で後押ししてください。

ご支援いただいた方には、感謝の気持ちを込めてPALOOKASオリジナルグッズを送らせていただきます。ぜひ、よろしくお願いいたします。



活動風景

〈九大フィルハーモニー・オーケストラ〉



九大フィルハーモニー・オーケストラでは、皆様からいただいた貴重な寄附金を、リハーサル会場費や楽器運搬費、楽器・備品の整備など、日々の活動を支えるために活用しております。リハーサルでは、第一線で活躍する演奏家の方々をお招きし、ご指導いただくことで、団

員にとって貴重な学びの機会となっています。

2027年9月には「第3回東京特別演奏会」の開催を予定しており、今後新たにご寄附を頂戴した際には、東京での会場使用料や交通費などに充てさせていただきます。なお、対象期間中にご寄附をいただ

いた方への特典も企画しております。

このほか、通常の演奏活動における楽器の購入・メンテナンスや楽器運搬費など、活動に不可欠な資金として大切に活用させていただきます。皆様の温かいご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。



アクロス福岡での本番



指揮者の先生をお招きしてのリハーサル

九州大学基金 令和7年度 受入実績

寄附目的	件数	金額(円)
一般資金	2,214	280,925,714
九大生応援基金	350	4,649,637
九州大学に一任する	1,818	36,695,902
エンダウメント型基金基金[令和7年度新設]	7	239,295,000
古本募金	39	285,175
特定資金	1,972	515,899,494
使途特定寄附金	12	56,162,000
使途特定プロジェクト	1,218	312,781,942
修学支援事業基金	334	10,835,000
伊都キャンパス植樹プロジェクト	29	461,000
ヨット部艇庫建設・活動支援基金	20	8,655,000
女性研究者活躍促進プロジェクト	55	363,157
安全管理・安全教育活動支援基金	14	24,000
課外活動における安全対策等支援基金	3	20,000
九州大学デジタル資料整備事業	28	1,594,204
三井住友信託銀行「医療支援寄付信託」	0	0
産業数学人材育成プロジェクト	29	2,218,000
総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業	47	2,670,000
法文学部創立100周年記念プロジェクト	60	637,000
近代建築物の保存活用プロジェクト	20	599,000
九州大学若手研究者育成・研究支援事業基金	97	1,096,000
エネルギーの脱炭素化に向けた研究事業	1	5,000
九州大学ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)事業基金	2	150,000
未来人材育成奨学金	11	11,000,000
学生の自主的アントレプレナーシップ活動支援	6	32,000
留学生支援事業基金	21	308,000
価値創造型半導体スペシャリスト育成プロジェクト	13	72,507,581
BeCAT・環境をテーマにした建築研究教育プロジェクト	2	20,010,000
九州大学附属図書館 医学図書館整備事業	273	7,570,000
糸島インクルーシブ・アートヴィレッジ・プロジェクト	8	2,534,000
九州大学病院における次世代基盤法を用いたデータサイエンス研究	0	0
ケンブリッジ大学英語・学術研修参加支援基金	32	11,731,000
スタートアップ共創基金	18	72,492,000
未来創成科学者育成プロジェクト	4	5,050,000
企業型冠奨学金	5	30,000,000
キャリア支援基金	14	10,510,000
QURIES基金	2	5,010,000
九州大学公開講座 Kyushu University Open Explorations 100「総合知」探究プロジェクト [令和7年度新設]	20	19,600,000

寄附目的	件数	金額(円)
寄附返礼プロジェクト 「附属農場の農産物詰め合わせ」 [令和7年度新設]	18	540,000
ウェルビーイングの定量化と育成プロジェクト:新国富指標 (Beyond GDP) の活用に向けて [令和7年度新設]	1	1,000,000
九州大学工学部創造工房建屋建設事業 [令和7年度新設]	23	860,000
脂質膜の動的振る舞いと創薬応用の分子基盤解明プロジェクト [令和7年度新設]	1	10,000,000
激変する森林生態圏の再生と保全 [令和7年度新設]	5	180,000
九州大学保健学学生支援基金 [令和7年度新設]	1	20,000
糸島子どもの居場所プロジェクト [令和7年度新設]	0	0
大気二酸化炭素を起点とする炭素資源循環研究プロジェクト [令和7年度新設]	0	0
こころとからだを育む一発達支援と心理リハビリテーション拠点整備プロジェクト [令和7年度新設]	1	2,500,000
部局特定寄附金	459	139,469,552
芸術工学支援基金	61	13,716,910
カーボンニュートラル・エネルギー研究支援	1	2,000
九州大学病院基金	152	51,554,444
法科大学院基金	72	6,412,000
工学教育研究支援基金	21	6,263,418
農の未来共創基金	19	1,165,000
次世代アントレプレナー育成	4	42,000
水素エネルギー研究教育基金	14	626,000
次世代の医療を拓く医学奨励基金	7	31,390,780
理学支援基金	14	280,000
ISEE(システム情報科学)基金	3	22,000
数学教育研究支援基金	17	81,000
歯学教育研究支援基金	12	1,127,000
アジア・オセアニア研究教育支援基金	1	10,000
言語文化教育研究支援基金	0	0
法学研究院基金	3	185,000
地球環境・エネルギー問題研究支援基金	23	274,000
薬学教育研究支援基金	15	10,518,000
物質・材料・化学先端研究支援基金	3	120,000
人文学教育・研究のための支援基金	4	440,000
総合理工学教育研究支援基金	4	2,100,000
高等研究院活動基金 [令和7年度新設]	1	10,000
経済学研究院基金 [令和7年度新設]	5	13,100,000
エネルギー人材育成・研究教育支援基金 [令和7年度新設]	3	30,000
共創学部教育支援基金 [令和7年度新設]	0	0

次頁へつづく▶

● 一般資金

合計：2,214件
総額：280,925,714円

● 特定資金

合計：1,972件
総額：515,899,494円

● 特例寄附資産等基金

合計：3件
総額：117,291,150円

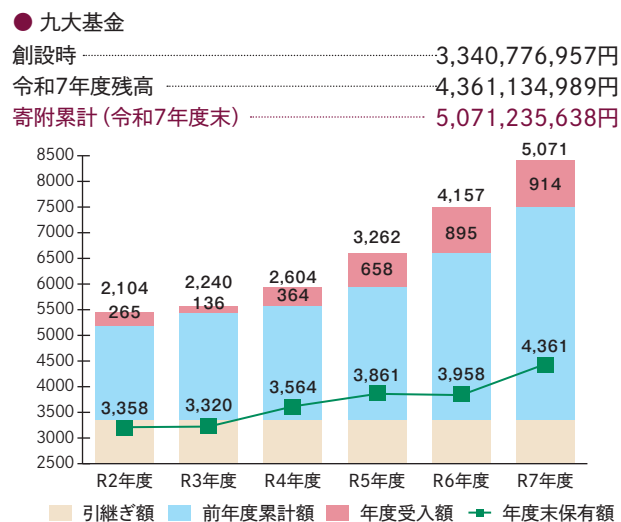
寄附目的	件数	金額(円)
部活動・サークル活動支援基金	283	7,486,000
【T-1】アイスホッケー部	2	20,000
【T-2】アメリカンフットボール部	8	127,000
【T-3】アルティメット同好会	3	50,000
【T-4】ウィンドサーフィン愛好会	0	0
【T-5】空手道部	3	35,000
【T-6】弓道部	1	10,000
【T-7】剣道部	27	420,000
【T-8】硬式庭球部	2	20,000
【T-9】硬式野球部	3	120,000
【T-10】ゴルフ道部	2	510,000
【T-11】サイクリング同好会	0	0
【T-12】山岳部	2	30,000
【T-13】自動車部	5	25,000
【T-14】柔道部	2	60,000
【T-15】少林寺拳法部	2	15,000
【T-16】水泳部	6	60,000
【T-17】水球部	0	0
【T-18】スカッシュ愛好会	0	0
【T-19】スキー部	0	0
【T-20】全学卓球部	2	110,000
【T-21】漕艇部	2	105,000
【T-22】ソフトテニス部	0	0
【T-23】体操部	0	0
【T-24】チアリーディング部	1	30,000
【T-25】テコンドー部	1	5,000
【T-26】トライアスロン部	1	10,000
【T-27】馬術部	4	130,000
【T-28】男子バスケットボール部	3	21,000
【T-29】女子バスケットボール部	7	61,000
【T-30】フットサル部	0	0
【T-31】洋弓部	2	40,000
【T-32】ヨット部	0	0
【T-33】ラグビー部	9	215,000
【T-34】男子ラクロス部	1	10,000
【T-35】女子ラクロス部	1	30,000
【T-36】陸上競技部	5	80,000
【T-37】ワンダーフォーゲル部	6	230,000
【T-38】応援団 [令和7年度新設]	2	20,000
【T-39】航空部 [令和7年度新設]	7	280,000
【T-40】サッカー部 [令和7年度新設]	1	5,000
【T-41】女子バレーボール部 [令和7年度新設]	0	0
【B-1】iTOP	1	10,000
【B-2】囲碁部	2	20,000
【B-3】SF研究部	1	10,000
【B-4】演劇部	3	25,000
【B-5】化学研究部	0	0
【B-6】学生劇団「いと」	0	0
【B-7】クイズ研究会	1	50,000
【B-8】グリーンクラブ	12	24,000
【B-9】軽音楽部ジャズ研究会	0	0
【B-10】剣舞道サークル	0	0
【B-11】吹奏楽団	12	105,000
【B-12】生物研究部	0	0
【B-13】探検部	2	60,000
【B-14】男声合唱団	24	149,000
【B-15】地学研究部	0	0
【B-16】鉄道研究同好会	0	0
【B-17】バンド同好会	1	10,000
【B-18】ピアノの会	0	0

寄附目的	件数	金額(円)
【B-19】ヒューマノイドプロジェクト	1	10,000
【B-20】フィルハーモニーオーケストラ	34	3,191,000
【B-21】PLANET-Q	2	60,000
【B-22】物理研究部	0	0
【B-23】舞踏研究部	3	25,000
【B-24】邦楽部	8	105,000
【B-25】法律相談部	0	0
【B-26】マジックサークル	1	10,000
【B-27】マンドリンクラブ	6	105,000
【B-28】湊坂46	0	0
【B-29】模型部	3	25,000
【B-30】落語研究会	1	30,000
【B-31】ロック研究会	0	0
【B-32】ロボコンチーム	3	45,000
【B-33】ロボット技術研究会	0	0
【B-34】混声合唱団 [令和7年度新設]	4	40,000
【B-35】書道部 [令和7年度新設]	1	10,000
【B-36】鳥人間チーム [令和7年度新設]	0	0
【B-37】百人一首愛好会 [令和7年度新設]	0	0
【B-38】和太鼓華響 [令和7年度新設]	5	14,000
【K-1】総合体育館屋内プール	1	10,000
【医-1】空手道部	1	10,000
【医-2】サッカー部	0	0
【医-3】準硬式野球部	1	10,000
【医-4】バスケットボール部	0	0
【医-5】フットサル部	5	50,000
【医-6】ラグビー部	0	0
【医-7】陸上競技部	0	0
【医-8】漢方医学研究会	0	0
【医-9】軽音楽部	1	10,000
【医-10】KLSA	0	0
【医-11】弓道部 [令和7年度新設]	0	0
【医-12】水泳部 [令和7年度新設]	0	0
【医-13】ピッكلボールクラブ [令和7年度新設]	0	0
【医-14】熱帯医学研究会 [令和7年度新設]	5	14,000
【歯-1】硬式庭球部(テニス)	0	0
【歯-2】サッカー部	0	0
【歯-3】準硬式野球部	1	20,000
【歯-4】バスケットボール部	1	220,000
【歯-5】吹奏楽部 [令和7年度新設]	0	0
【保-1】バスケットボール部	12	120,000
【芸-1】格闘技研究会	0	0
【芸-2】バレーボール部	0	0
【芸-3】ラグビー部 (KID-RFC)	0	0
【芸-4】impression!	0	0
【芸-5】JAZZすきもの会	0	0
【芸-6】照明屋	0	0
【芸-7】吹奏楽団	0	0
【芸-8】テブ・レポート・プレイ	0	0
【芸-9】フィルハーモニー管弦楽団	1	5,000
【芸-10】Rec-lab. (レクラブ)	0	0
【芸-11】3DD	0	0
特例寄附資産等基金	3	117,291,150
合 計	4,189	914,116,358

これまでの寄附実績及び資金運用実績

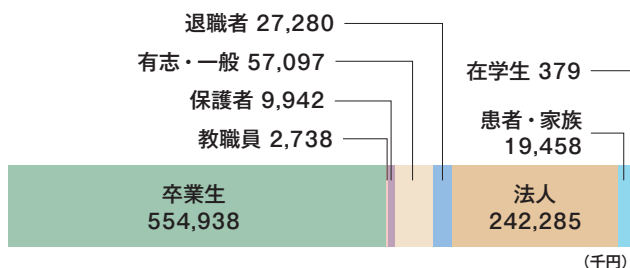
※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

■ 九大基金寄附額累計及び年度末保有額



■ 寄附者属性別寄附額

令和7年度総額： 914,117千円



■ 九州大学の資金運用実績(長期運用)

	令和7年度		令和6年度	
	運用額	運用益	運用額	運用益
九州大学全体の資金運用	16,706	879	14,022	241
うち九州大学基金の資金運用	4,088	61	3,519	69

(単位：百万円)

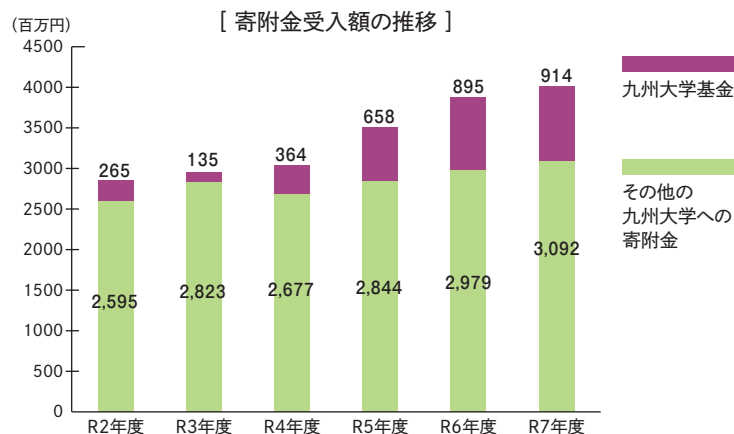


本学の資金運用状況の詳細については、右記の2次元コードからホームページをご覧ください。

Accompanying Information

九州大学全体に見る 九州大学基金

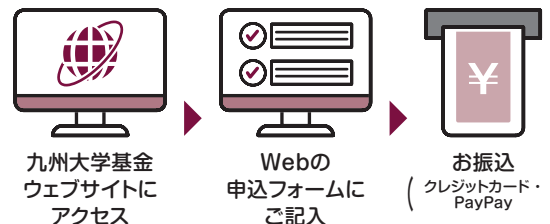
九州大学では、令和7年度に約40億円を企業や個人の方から、学術研究や教育の充実のためにご寄附いただきました。



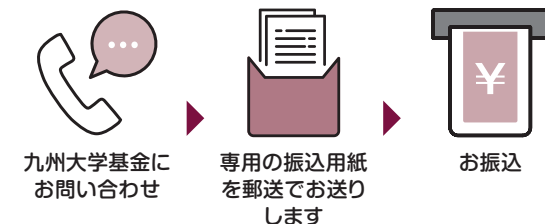
九州大学基金への寄附をご検討の皆さまへ

〔ご寄附の方法〕

●ウェブサイトからの手続き



●金融機関からの振込による手続き



- ◎単回のご寄附のほか、自動的に寄附いただける便利な継続のご寄附もあります。
- ◎法人・団体の皆さまはお問い合わせください。
- ◎詳しくはこちらをご覧ください <https://kikin.kyushu-u.ac.jp/contribution/>



税制上の優遇措置

本学にご寄附いただいた日本国内居住の方につきましては、確定申告をすることで税制上の優遇措置を受けることができます。また、法人は寄附金の全額を損金算入することができます。

顕彰および寄附者さまへの謝意

ご寄附の累計額に応じて称号(4ページ)および九州大学基金感謝状を贈呈させていただきます。
そのほか、伊都キャンパス・椎木講堂に設置の銘板へのご芳名掲載、様々な特典を用意した九大会員証の発行(個人の寄附者対象)などをご用意しております。

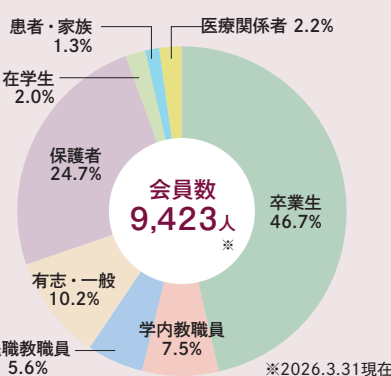
九大会員とは

- 1回1万円以上もしくは継続年2,000円以上の九大基金へのご寄附者は**どなたでも会員になれます**。
- 会員資格は**無期限**。(寄附額に応じて会員証を発行します。会員証有効期限は5年間です)
- カード提示により、**提携先約90社から100種類以上**の特典が受けられます。

●会員証



●九大会員会員属性



春・秋のキャンペーンでは、提携先から観劇チケット、ホテル宿泊券、レストラン食事券などをご提供いただき、期間中に寄附いただいた方に抽選でプレゼントしています。

春：入学シーズンに合わせ、大学一任・九大生応援基金・修学支援事業を対象に実施、540件、約1,100万円のご支援をいただきました。(2026.2~4)

秋：2025年は部活動・サークル活動支援基金を対象に、131件、約210万円のご支援をいただきました。(2025.9~11)

●詳しくは九州大学基金ホームページをご覧ください <https://kikin.kyushu-u.ac.jp>

